

手作り楽器で遊ぶ 「回す鳥笛」「カズーラッパ」

〈音楽する〉＝〈楽器をつくる〉 身近にあるものを使って作ります

楽器を作る——特別な技術を持った職人が作るものと思いがちです。ピアノみたいな精密な楽器や金属加工を必要とする楽器は、素人では難しいかもしれませんが、いろいろな国・地域にねざしている民族音楽では、そこで使う楽器を〈自分で作る〉〈自分で直す〉〈自分で改良する〉ことが一般的です。楽器作りは、子どもたちも加わって、日常の音楽活動の1つにもなっています。〈音楽をする〉ことと〈楽器を作る〉ことが結びついているのが、世界的にみると“ふつうのこと”なのです。

□「こどもの城」の「手作り楽器」□

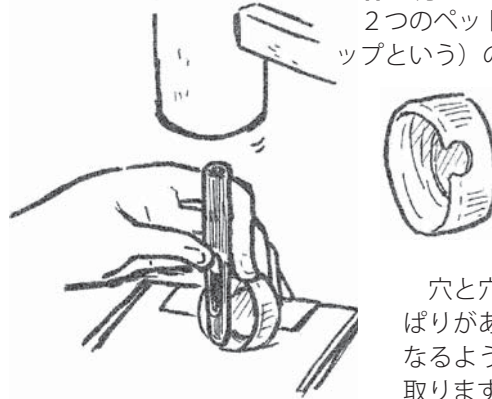
- 材料は、身の回りにある廃材や、安価で手に入れられるものを選んでいきます。
- 道具は、ふだん使っているものを中心に、簡単に安価で手に入れられるものが基本です。カッターなど、使い方によって危険なもの、子どもたちの作業では使わせないようにしています。
- 小学校低学年の子どもが、30分以内でがんばって自力で作れる程度のものを基本にしています。
※幼児でも大人のサポートや、用意する材料を工夫すれば可能。ある程度まで作っておくなど。
- いい音が出て、子どもたちの興味を引きつける楽器を心がけています。

ペットボトルキャップの 回す鳥笛

世界には、鳥の鳴き声が出せる笛がたくさんあります。鳥の美しい鳴き声をまねた音を出すためだったり、鳴き声で仲間の鳥を集めることが目的であったりします。ペットボトルのキャップを使って作る小鳥がさえずっているような音がする、鳥笛を紹介します。

□作り方□

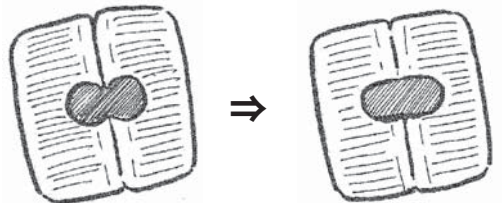
2つのペットボトルのキャップ（以下キャップという）の内側に、穴あけポンチを使って穴をあけます。半円よりも少し大きめにあけるのがポイントです。



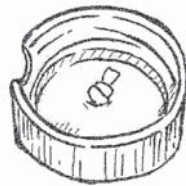
穴と穴を合わせます。中央部にでっぱりがあるので、薬のカプセルの形になるように、でっぱりをはさみで切り取ります。

1つのキャップの真ん中に、千枚通しで穴をあけます。

その穴にたこ糸を通して、キャップの内側で結び目を作り、引っ張った時に抜けないようにします。2～3回結び、結び目を大きくします。たこ糸の反対側のはしにも、



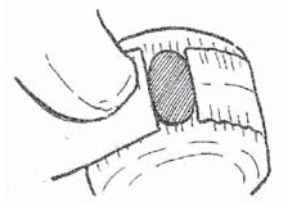
結び目を作り、たこ糸がほつれないようにすると同時に、回す時の滑り止めにもします。



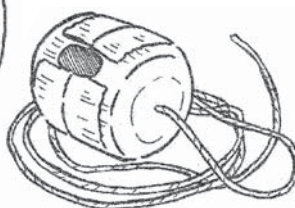
ガムテープで2つのキャップをはりあわせませます。すき間がないように、穴の位置がずれないように、ていねいにはりあわせて

ください。音をだすための、重要なポイントです。

テープは、はがれにくくなるように、キャップの溝にそって爪を立てるようにして押さえ、しっかりととめます。

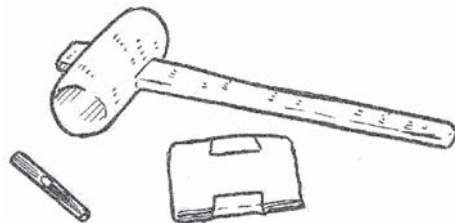


イラスト：いがき けいこ



□「回す鳥笛」作りに使う道具□

- ①直径4mmの穴あけポンチ（金物店、レーザークラフト店などで入手できます）
- ②木づち
- ③穴開けのための台（新聞紙などを、厚さ5mm×縦70mm×横100mmほどに折り畳んだもの）



□「回す鳥笛」の材料□

- ①ペットボトルのキャップ2つ（同種類のもの）
- ②太めのたこ糸（75cm）
- ③ガムテープ少々

□遊び方□

たこ糸のはしを持ち、はりあわせたキャップを勢いよくグルグル回します。たこ糸を一杯に伸ばした状態で回すと、よい音がします。

まわりに人がいないこと、ぶつかる物がないことを確かめてから事故の無いように気をつけて遊びます。



□口でふいても音がでます□

「回す鳥笛」は、回した時に穴の所に風がぶつかって音が出ます。と言うことは……ここに口を当て、細く少し勢いのある息で穴のふちに当たるようにふくと、笛のように音が出ます。挑戦してみてください。

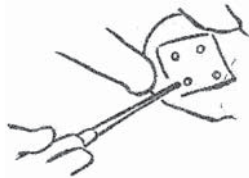
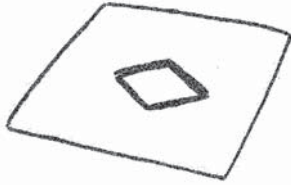
あき容器を使った カズーラッパ

息を吹き込むだけでは、音になりません。言葉を話したり、「うーうー」と言いながら、息を吹き込むと、“ビリビリ”とした音に変わって、おもしろい音が出る楽器です。

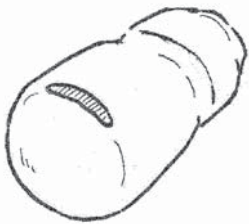


□作り方□

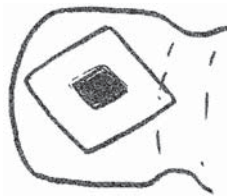
容器の側面に、1辺15mmの正方形を書きます。かんたんに書けるように、牛乳パック製の型紙を用意しています。



正方形の穴を下にして容器を置き、底と側面の角のところに、千枚通しで15mm程度の横長の穴を開けます。最初は、小さめに穴をあけ、音が出せるようになってから、調整するといいいでしょう。



正方形の穴のまわりの両面テープの保護シールをはがし、35mm四方のポリシートをはりつけます。ピンと張る必要はありません。これで完成です。



□音の出し方□

笛を吹くのと全く違って、息を吹き込むだけでは音は出ません。飲み口の部分に口をつけたり、くわえこむようにして、容器のなかに向けて言葉を話したり、「うーうー」となったりすると、“ビリビリ”とした音になります。

“ビリビリ”した感じがよく出るように、指のはらで押ししたりして、ポリシートのはりを調整します。



飲み口の部分に口をつけて吹く方法と、くわえこんで吹く方法があります。音を出しやすい吹き方でチャレンジしてみてください。

□「カズーラッパ」作りで使う道具□

- ①千枚通し
- ②はさみ（先きが少しとがったもの）
- ③油性ペン

□「カズーラッパ」の材料□

- ①乳酸菌飲料の小さい容器
- ②薄めのポリ袋（スーパーで、サービス用に置いてある薄手のポリ袋など）から35mm四方のシートを切り出しておく。
- ③幅30mmの紙製の両面テープ

書いた正方形の上に、紙製の両面テープをはります。両面テープの保護シールの上から、すけて見える正方形の四隅に千枚通しで、大きめの穴をあけます。そこに、はさみを差し込み正方形を切り抜きます。



□遊び方□

“ビリビリ”音を楽しむのが基本です。

【1人の場合】

「うーうー」と言いながら——

車の通過するような音を出します

バイクのエンジン音のまねをします

言葉をしゃべりながら——

雑音の多いスピーカから聞こえる歌のように歌ってみます

【複数で遊ぶ場合】

1人の場合の遊び方を応用して——

多人数で車の通過するような音を出します

コールアンドレスポンス（まねっこ）。リーダー役が言った言葉や出した音を、他の人がまねっこをします

（例）リーダー：「こんにちは」→ みんな：「こんにちは」

リーダー：「ブップ〜ブ」→ みんな：「ブップ〜ブ」

ビリビリかえるの「かえるの歌」の輪唱

「かえるの歌」などをみんなで輪唱します

□指導者のみなさんへのお願い□

何度も何度も同じ楽器を作り、作業にも慣れ、良く鳴る楽器はどういうものか、どのようにしたらうまく作業ができるかなど、十分に体験した上でご指導をお願いします。十分な経験を重ねておかないと、子どもたちの深い満足につながる指導ができません。

紹介した制作手順は基本的なものです。実際は、対象年齢、使用できる時間枠、活動場所、スタッフの人数などによって異なります。状況に合わせて、制作内容を含め、臨機応変に対応してください。

□手作り楽器の大切にしているところ□

- 自分で工夫して、より良い音が出るようにしようという創造する喜びを伝えること。
- 自分だけのオリジナル楽器であること。自分で作ったことで、その楽器への思い入れや大切にしようという気持ちが高まり、音楽活動への気持ちも深まるのではないのでしょうか。

- 廃材や身のまわりの素材を使うことで、ものを大切に作る気持ちとエコロジーへの関心を高めること。
- より音楽を好きになってもらいたい。音の出る原理を知ったり、楽器を作った達成感などを“音楽遊び”の活動のなかで体験し、今までにない音楽の楽しみ方を知ってほしい。